



カリオカの風

リオデジャネイロ日本人学校通信

3月号

令和7年3月14日

校長 小堺 広司

学校教育目標

「やさしく

かしこく

たくましく」

～世界の架け橋となる子どもたちの育成を願って～



「卒業おめでとう！ 進級おめでとう！」

～あなたにめぐりあえてほんとうによかった 新たな旅立ちへ～

あなたにめぐりあえて
ほんとうによかった

生きていてよかった
生かされてきてよかった
あなたにめぐりあえたから

つまづいてもいい
ころんでもいい
これから先
どんなことがあってもいい
あなたにめぐりあえたから

ひとりでもいい
ころから そういって
くれる人が あれば

相田みつを 「めぐりあい」

世界にたったひとつのリオデジャネイロ日本人学校に、10人の子どもたちが集まった。

最初はだれでも不安。でも、不安を吹き飛ばす魔法の言葉があった。『リオ日学ファミリー』。

小2から中3まで、みんな兄弟のよう、7人の教師と現地スタッフの皆さんに見守られ、思う存分、学び、遊び、地に足をつけ、しっかり成長していく。

そんな学び舎を、4人の仲間が卒業する。小学部6年生・下田奏凜さん、中野成寛さん
中学部3年生・大野瑛人さん、大野慧人さん

卒業おめでとう！君たちへ、「めぐりあい」の詩を贈ろう。「あなたにめぐりあえてほんとうによかった」。

新たな出会いが始まる。リオ日学で身に着けた大きな自信をもって、世界に羽ばたいてほしい。

修了そして進級を迎える仲間たち、次は君たちの番だ。新しい扉を『リオ日学ファミリー』の力で開いていこう。

令和6年度、リオデジャネイロ日本人学校の1年間が、本日、無事に修了いたしました。

これまで、保護者、領事館、学校運営委員会、商工会員、日系協会、その他関係機関の皆さまから賜りましたご理解とご協力に感謝します。

小学生2名、中学生2名が本校を卒業し、それぞれが新たな目標に向かって歩んでいきます。

これからも、次代の架け橋を担う子どもたちを育てるために精進してまいります。

<3月14日 卒業式校長式辞より抜粋>

卒業生の皆さんへ私から最後のメッセージです。

「ぼく モグラ キツネ 馬」というイギリスの有名な絵本に、主人公の少年がモグラとキツネと馬と自分探しの旅をしながら会話する様子が描かれています。リオの本屋さんでも売られていますので、その中の二つの場面を紹介したいと思います。

ひとつめの場面は、ある時少年が「いちばんの時間のむだってなんだとおもう？」と聞くと、「じぶんをだれかと比べることだよ」とモグラは答えました。ポルトガル語では、

「Para você, Qual é a maior perda de tempo?」

「Ficar se comparando com os outras.」

と書かれています。皆さんはここからの人生でたくさん仲間たちと出会います。もしそこで、他者と比べ、自分って何だろう、あれができない、これができないなど、自分を否定したくなる時があったら、この言葉を思い出してください。「自分は自分、他者と比べる必要はない。これまで私はリオデジャネイロ日本人学校でかかげのない経験を積み重ねてきた」と誇りに思い、前進して行ってください。

ふたつめの場面です。「いままでにあなたがいったなかで、いちばんゆうかななことは？」ぼくが馬にたずねると、「たすけて」馬は答えました。ポルトガル語では、

「Qual é a coisa mais corajosa

que você já disse?」

「Socorro.」

「たすけを求めることは、あきらめるのとはちがう。あきらめないために、そうするんだ」

Pedir ajuda não é a mesmacoisa que desistir, você faz isso para não desistir.

と最後に馬が言いました。

皆さんは、これまでリオデジャネイロ日本人学校のリーダーとして、強い責任感を持ち、だから信頼される行動を心掛けてきました。与えられた責務をまっとうし、信頼を勝ち取ることは素晴らしいことです。ただ、これから中学生・高校生になると、自分の想像を超えた責任や期待に直面し、「自分で何とかしなければ」と考えることが、知らず知らずのうちに身体や心に大きな負担となることがあります。どうしてもできない、自分には重荷だ、と思いつつも、それがあつたら、「たすけて」と親でも友だちでも、先生でも、誰でもよいので近くの人に話してください。「たすけて」は、心を落ち着かせ、あきらめないで生きる魔法の言葉になります。

いよいよ旅立ちの時です。感謝の思いを胸に、世界の架け橋として、自立した社会に貢献できる人となるために羽ばたいてください。教職員一同、心から応援しています。